

新潟支部会報

一般社団法人 大学女性協会新潟支部
2021年11月 No. 5



目次

月例会報告、支部の動き・・・1頁
6月学習会報告・・・2～4頁

9月学習会報告・・・5頁
会員近況アンケート・・・6～7頁
お知らせほか・・・8頁

支部長あいさつ

今年度も半ばとなりました。6月、9月の学習会では各担当部会が内容に工夫を凝らし、Zoomを利用して開催いたしました。諸事情により出席が叶わない会員も増えてきましたが、このたび会報を利用してより詳しく活動内容をお知らせできることを嬉しく思います。また、12月には授与式を控え、伝統ある新潟支部奨学賞の事業も順調に進めておりますことご報告いたします。皆様、くれぐれもご健康にご留意いただき、またお元気にお目にかかれましよう、心待ちにしております。 大淵 智絵

月例会報告

【6月例会】

- 1, 支部奨学賞、国内奨学賞の応募要項を各大学に送付済みの報告
- 2, アルザにいがた行事について連絡（団体交流会、アルザフォーラム）
- 3, 全国支部長会議報告
- 4, 会員への近況伺いアンケート実施の相談
- 5, 9月例会学習会 社会学習部担当に変更の連絡

【9月例会】

- 1, 支部奨学賞選考表の見直しについて検討
- 2, 会員への近況伺いアンケート実施報告
- 3, 本部の取り組みについて連絡

支部の動き7月～10月

【7月】

- 7/4 にいがた女性会議運営委員会に出席/大淵
7/26 会報No.4の完成、発送（同封 支部アンケート、Webでの情報提供について、9月例会案内ほか）
*新潟県女性財団、新潟市男女共同参画推進センター、新潟市市民活動支援センターへも会報をお届けすることにしました。
7/31 アルザにいがた団体交流会に出席/鈴木

【8月】

- 8/3 本部、各支部からの情報案内他をメール配信
8/7 にいがた女性会議運営委員会に出席/大淵
8/18 本部アンケート他についてメール配信
8/30 第3回役員会（Zoom）
8/30 第1回全国支部懇話会出席/鈴木（Zoom）
8/31 本部国内奨学賞応募受付しめきり

【9月】

- 9/1 新潟支部奨学賞応募受付開始
9/3 一部会員へメール配信内容のおたより郵送
9/8、9/14 社会学習部打ち合わせ（Zoom）
9/15 国内奨学賞応募書類を本部へ郵送
9/18 にいがた女性会議運営委員会に出席/大淵
9/25 9月例会、社会学習部学習会（Zoom）

【10月】

- 10/2 にいがた女性会議運営委員会に出席/大淵
10/8 会報担当者打ち合わせ（Zoom）
10/10 新潟支部奨学賞応募しめきり
10/13、10/26 奨学賞担当者作業
10/25 新潟支部奨学賞選考会（Zoom）

6 月 学習会報告

男女共同参画部学習会

男女共同参画部長 高橋令子

坂東真理子さんのご講演を聞いて話し合う会 ～「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を超えて」

講演日時： 2021 年 6 月 26 日(土) 13:30～15:30 オンラインと会場（県女性センター）の併用開催

講師：坂東真理子さん 昭和女子大学理事長・総長、初代内閣府男女共同参画室長

著書に『女性の品格』『70歳のたしなみ』『幸せの作法』等

学習会：講演後に Zoom の当会の URL に変更して開催。

15:30～16:00 例会 16:00～17:00 学習会 参加者：会員 8 名（オンラインで参加）

新潟県女性財団主催「^{ひと}女と^{ひと}男フェスティバル 2021」基調講演会に参加して、会員同志の意見交換を実施しました。講師の坂東真理子さんは、国家公務員として国の男女共同参画政策に直接関わり、その後に女子大学の総長として女子学生の教育にも携わりました。男性主流の日本社会の中で、ご自身のキャリアを全うしてこられたロールモデルともいえます。我が国の男女共同参画関連の制度はだいぶ進化してきたとは思いますが、それに必ずしも意識が伴っていないと感じている人は少なくありません。「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」が昨今注目されている背景にはそれがあると思います。今回のご講演は、意識の視点から日本社会の男女の関係に言及され、ご自身の体験談も興味深く、示唆に富んだお話でした。



1 講演概略

「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」は、森喜朗元総理の「女性の会議は時間がかかる、云々。」の発言で今年の 2 月に広く知られることになった。社会的地位の高い男性の偏見はもちろん問題だが、女性自身もそれに気づくことが大切。「私は女性だから何を言ってもだめなんじゃないか？」とあきらめて、自分で自分をおとしめていることがある。それをなくしていこうではないか。

<コロナ禍での社会変化> 2020 年 2 月に学校行事を中止して以来デジタル化がすすみ、オンラインをせざるをえなくなった。在宅勤務も増え、男女間でも性別役割分担が明確になった。従来は「セブンイレブン・ハズバンド」といって、夫は昼間は家にいなかった。それが急に在宅になり、コロナ離婚もあった。働くことと生活することをあらためて考えざるをえなくなった。夫は外で稼ぎ、妻は家で家事、育児、介護をしてきたが、それを見直すことが必要になった。オンラインは今後当たり前になるだろうから、これは一時的なものとはいえない。

少子高齢化も加速している。高齢者の死亡率が減って出生数は減少。今年の出生数は 80 万人を割り込むのではないか。これを前提とした社会を構築しなければならない。アンコンシャス・バイアスをもっていると社会がうまくいかなくなる。デジタル業は好調だが人が移動する業種やサービス業は低迷している。対人サービスの社員は女性に多いので、コロナ不況では女性にしわ寄せがきている。

<社会の中のアンコンシャス・バイアス> 2003 年、内閣府男女共同参画室長だったころ、「2020 年までにあらゆる分野の意思決定層の 30%を女性に」と閣議決定した。当時、上野千鶴子さんなどは、「それではなまぬるい。」と言ったが、2020 年になっても職場の女性管理職 14.8%、衆議院議員 9.9%、弁護士・裁判官等 25%、医者 3 割、国家公務員 4 割。全体としてはまだまだである。ジェンダー指数は、156 か国中 120 位。なぜ？それは、男性にアンコンシャス・バイアスがあるから。経済界では、「女性に活躍をうながしても女性本人たちが消極的。」と言われる。家庭内の仕事との両立ができない。「女性は昇進したがるもの。」「女性は家庭を最優先するもの。」という決めつけが多いようだ。「女性はまじめで成績が良いから採用率が高くなるが、男性の方が後でのびるから」と、男性の成績にげたをはかせて、男女の採用の比率を調整するなどはもってのほかだ。

<女性自身のアンコンシャス・バイアス> 女性自身がアンコンシャス・バイアスに囚われている。「責任のある地位に就くと風当たりが強いし、両立しにくいから就かないほうがいい。女性には大変なんだよ。」とすりこまれている。これを解放することが必要。「子育ては自分ががんばらなくちゃ。」と思っている人がたくさんいる。働くにしても「子どもや夫に迷惑をかけてはいけない。」「自分の社会活動を夫がきつと嫌がるのではないか。」「普通の女性には仕事は無理。」と思いつまんでいる。個人が変わらなければならない、と思う。自分の考えは思い込みじゃないか、と思うこと。すべての女性がすべての男性に劣っているわけではなく個人差がある。

<生涯学習の大切さ> 自分を大事にして可能性を育て、社会や周囲の人たちを助ける力を持つ。その最初のステップがアンコンシャス・バイアスをなくすことではないか。自分なりの得意なことをのぼしていく。社会のデジタル化、少子高齢化などの変化に対応し、女性も十分に働ける社会を作る。個々人が社会人になってからも勉強、努力する必要がある。日本では大学へ入学すると勉強しなくなり、社会へでてから会社で学ぶが、今は会社の余力がなくなってきたので、個人で勉強してブラッシュアップしなければいけない。それがグローバル・スタンダードでもある。女性達も新しい分野で働くスキルを身に付けてほしい。

<外国の例> フィンランド、アイスランドではなぜジェンダーギャップ指数が高いのか？1960年代までは日本と同じように女性は家庭内で働いていた。なぜ変わったのか？（以下はフィンランド・センターの資料より）

- ・勇気（自分にはとてもできないという思いこみを捨てる）
- ・成功しているロールモデルが近くにいる。 ・共感（困っている人に共感し、支援する。）
- ・父親のサポート ・女性自身の決意 ・生涯教育 ・協力
- ・女性達のネットワークを広げた（ソフトネットワーク：外の世界の人との繋がり）。
- ・救援力・援助力（困っている時に助けを求める、求められたら助ける、自己責任ではない。）

<女性リーダーに> ・これからの女性リーダーには3Sが必要、
Sympathy（共感）、Share（分かち合い）、Support（支援）

- ・カリスマ性があり「俺についてこい。」という男性タイプではない。
- ・「女性はリーダーにはなれない。」「余計な事はしないほうがいい。」というアンコンシャス・バイアスを捨てる事。



<フロアとの質疑応答（抜粋）>

- Q1: 3Sが必要といっても基本はコミュニケーションではないか。それをうまくとるためには？
- A1: 男性達は、女性の思いを考慮することが少ないようだ。セクハラ等もしかり。高齢者の言うことに耳をかさない若者等も。はっきりと断るときのスキルが必要。力のある人は、弱い立場の人を思いやることはほとんどない。弱い立場の人が思いを伝えるスキル「アサーティブ・トレーニング」が有効である。
- Q2: フィンランドの改革の中の「父親のサポート」に関して、父親の意識改革はどのようなものだったか？
- A2: リベラルな父親。思い込みに囚われていないこと。相手の立場を認めるような人。
- Q3: 女子大学生の中に「将来、総理大臣になりたい」と言った学生はいたか？
- A3: それはいなかった。しかし、最近は仕事と生活を両立させたい女子学生は増えたと思う。
- Q4: 「女性活躍のためのメッセージを」
- A4: 3つの「き」を実践すること～「期待する」「鍛える」「機会を与える」
その人が何を期待されているか、あなたのどこに期待している、とわかるように具体的な言葉かけをする。

2 学習会 講演後の意見交換

ファシリテーター：高橋令子

講演の内容についての話し合いをオンラインで実施しました。オンラインのリテラシーを習得できれば、より実りあるものになると思います。「ブレイクアウトルーム(少人数に分かれての話し合い)」やアンケートにもなる「投票機能」を利用しました。あらかじめ話し合いの議題を2点に絞って講演を聞いていただきましたので、内容の進行は割合スムーズに時間内に終了しました。オンラインのスキルは、参加者、ホスト役共にまだ修行が必要ですが、皆さんの思いを共有して有意義な時間でした。「アンコンシャス・バイアス」という言葉を今回初めて聞いた会員は半数もいて、良い学習と気づきになりました。今回学んだことや疑問に思った点を、これからの学習につなげていけたらよいと思っています。

① 講演内容で印象に残ったこと・・・Zoomのチャットに記入してから全員で意見交換

- ・「アンコンシャス・バイアスがあるからと諦めるのではなく、自分自身がそれから解放されなければならない。」という言葉。夫婦喧嘩の時にもそれを感じることもある。
- ・いつも常識と思っていたことを考え直して、それを言葉にすることが大切だと思った。
- ・パワーのある方は困難な時でも前向きでスゴイ。アンコンシャス・バイアスは性差だけではないと気づいた。社会のしくみの限界や、聞く耳を持たない人への対処は現実的で実践の参考になる。
- ・人と人との関わりが大切、特に女性リーダーに必要な3つのS (Sympathy, Share, Support) について。勇気が必要ということ(自分にはとてもできないという思いこみを捨てる)。女性のソフトネットワーク。
- ・官庁でお仕事された方だけに現場主義・現実主義だと思った。
- ・質疑応答の中で、女性活躍への3つの「き」の話(期待する、鍛える、機会を与える)には感心した。
- ・アサーティブ・トレーニング(弱い立場からの主張のしかた)が大事だと思った。
- ・女子学生の将来への希望については、主婦でパートの女性像があって残念に思ったことがあり、共感した。

② 講演内容で疑問に思ったこと・・・Zoomのブレイクアウトルームで3グループで話し合ってから発表

- ・両親が仕事を持った時や、辞めて家庭に入った時に子ども達はどう思うか？
- ・フィンランドでの「父親からのサポート」とは具体的にはどういうことか？母親はどうなのか？
- ・父親からのサポートを得るにはどうしたらよいか、社会はそれのために何をすればよいか？
- ・グローバル・スタンダードでの大学での学びでバイアスをなくすには何が必要だろうか？
- ・坂東さんは、アンコンシャス・バイアスの中を生き抜いてこられた方。これからの女性達は、それを乗り越えていかなければならないのでは。

③ 参加者の終了後のアンケート結果 Zoomの「投票機能」を使用(参加者8名)

1 講演会の感想は？

①大変良かった 5人 ②良かった 3人

2 「アンコンシャス・バイアス」を知っていましたか？

①前から知っていた 4人 ②初めて知った 4人

3 「アンコンシャス・バイアス」について伺います。

①興味深い 6人 ②多少関心がある 2人

4 ジェンダー関連で更に学習したいことは？(一択)

①ジェンダー概論 0人

②アンコンシャス・バイアス等の意識関連 5人

③女性活躍推進、夫婦別姓等の制度関連 3人



Zoomでの話し合いの様子

9 月 学習会報告

社会学習部学習会

社会学習部長 登坂美江子

わたしたちの「新潟支部奨学賞」論文応募 10 年をふりかえる 講師：五十嵐由利子さん（新潟大学名誉教授）

日時：2021 年 9 月 25 日 13：30～15：30 学習会 15：35～16：00 例会 オンラインでの開催 参加者 9 名

新潟支部奨学賞は 2012 年に選考方法を変更して、女性への差別や女性の活躍をテーマに小論文の提出を受け、会員による選考を行ってきました。今年の第 72 回は変更後 10 回目になります。これまでを振り返り、また今後の選考に臨むための学習として、Zoom にて新潟大学名誉教授で当支部会員の五十嵐由利子さんより「大学でのレポート指導のポイント」と題してお話をいただき、その後、模擬採点を行いました。「起承転結」は、レポート・論文の構成として主流ではなくなってきたり、はるか昔に学生だった参加者年代には目からうろこのお話もあり、新潟支部奨学賞のより良い運営を行うためにたいへん有意義な時間を持つことができました。

<お話の概略>

大学におけるレポート指導のタイミングは①1 年生に入ってからすぐの初年次教育、②各授業でのレポート課題、③卒業研究指導、である。大学進学が一般的になってきて多様な学生が入学してくるようになり、卒業時の質の保証、学生の大学教育への早期適応、中退などの挫折を防ぐために初年次教育が必要になってきた。日本においても平成 19 年に中央教育審議会が初年次教育の重要性を指摘、学士課程教育の中に明確に位置付けることを提言し、多くの大学・短大で 1 年次必修科目となった。初年次教育の内容としては○図書館の利用の仕方（文献検索の方法）○ノートの取り方○レポートの書き方○専門教育との関連からの動機付け的な内容 があげられる。

レポートの書き方指導の例として（レポート三大原則）①自分の言葉で語り、資料からの情報は出典を明らかにする。「事実」と「意見」を区別する。②命題を明白にする。③書式はきちんと統一する。等があげられる。

学生が主体的に課題を設定し、情報収集や整理分析をしてまとめる能力の育成のために、**探求力・構築力・表現力**が重要である。高等学校でも、2022 年度から「総合的な学習の時間」が「総合的な**探求**の時間」に変わる。

◆探求のプロセスとは

①明らかにしたいこと ②具体的にどんなことをどんな方法で調べたらよいか ③調べた結果の分析と考察 ④明らかにしたいことは分かったか のことで、①と④がつながっているかが重要である。

◆レポート・論文のプロセスとは

①自分の主張をわかりやすく伝えるために結論を先に書く ②課題の提示と分析 ③先行研究の批判 ④課題解決の提案 の順になる。構築力・表現力は論文としての質につながる。

◆書き方の基本ルールとは

文体は基本的に「である」を使用する。段落は意味のまとまりではなく読みやすさで（結果として段落が意味のまとまりをつくる）、引用文献の表記は分かりやすく、等がある。

<模擬採点と話し合い>

各自前もって配信された論文を採点して出席し、感想および点数発表。五十嵐さんに別論文も解説して頂きながら質疑応答など、今後に向けてよい話し合いもできました。

五十嵐さんからは、支部奨学賞は論文テーマが決まっているが、独りよがりではなく多くの人から共感が得られるよう、根拠をもとに論文構成ができているかが重要ではないかとまとめていただきました。



会員アンケート報告

昨年度からの新型コロナウイルス感染拡大により、当会の活動は会員同士顔を合わせる機会が急激に減少しました。希薄になってしまったコミュニケーションの一助にと、このたび会員の近況を伺うアンケート調査を行い 16 名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。



支部会員近況うかがいアンケート 回収期限 2021 年 8 月 31 日 回収数 16

年代別回答数

40代 1名 / 50代 0名 / 60代 5名 / 70代 5名 / 80代 5名 / 90代 0名

① 昨年からの自粛生活でご体調はいかがですか

良くなった 0 / 変わらない 9 / 悪くなった 5 / その他の回答 2

悪くなった ・ステイホーム生活で運動不足、精神的ストレス。

その他の回答 ・少し悪い〜体重が増えた。

・自粛生活とは関係なく昨年从不調が続き要支援1→要支援2→要介護1と落ちました。今は落ちついています。これ以上悪くならないことを願っています。

② 自粛生活で困ったことはありますか

・誰も知らないところで一人で入院、この心細さはわすれません。
・外出を控えることで今まで参加していた集まりに出席できず、買い物も不自由しています。身内との交流も我慢していて残念です。
・コロナ禍で県外への移動が出来ない。 ・特になし ・家族に会えないこと。
・医院に行くことをこぼんだ。友人との集まり中心の安らぎが遠のいた。日用品の購入、離れている家屋の管理が出来ない。
・外出自粛という点では病人の看病があったので変わらない。
・歩く機会が減り、足の力が落ちたことが心配です。
・外出するのが億劫になった。体力がますますなくなったような気がする。
・普段出来ないことにとりかかれてメリットも大であった。(しいていえば直接面会が出来ず心寂しく、コロナ罹患の不安と経済動向の停滞)
・持病通院のため単身で東京在住の生活なので、1日誰とも会話(対面会話)できないステイ生活。今更ながら高齢者に必要な?「今日用(事がある)」「今日行(く所がある)」があればなあと。
・外食がほとんどできない事、外出も控えた為、体力がなくなった。
・運動不足もあり、体重は増え、体力は落ちていると感じる。
・行動半径が狭まり、筋肉・知力共に衰えていることを実感しています。県外との往来が制限されているので、家族と会うことが全くできません。
・事業がうまく行かなくなった方々が周囲に多く居り、どう支援できるのか考えています。
・実家やお墓参りに行けない。

③ 取り組む時間が増えたこと、新しく取り組んだことはありますか

・外に出られないのでスマホでラジオ講座を聴き、自分のペースで勉強しています。聴き逃しサービスもあり、有難く思っています。
・ユーキャンのフラワーアレンジメントと日本書道教育学会のペン習字基礎講座を通信講座で受講し、終了証書をもらいました。現在ウクレレを買い勉強中。
・オンラインへの参加、ホスト役の技術習得に関すること。
・軽い散歩で体調と心の癒し。食事への関心手造り、食材の100%利用に向けて。コンポストの再利用。新聞を読む時間が増した。怒りを感じても抑制できるようになってきた。
・自助 ・(家族の看病があり) 拘束時間が長いので特に何もなし。
・読書。日本語の魅力を改めて学びなおしています。
・身辺整理—色々な会でもらった資料を捨てる。自分で作った資料も捨てる。雑誌を捨てる。本を捨てる。今あるものを少しずつ減らし、新しいものには取り組まないという覚悟で生きている。
・増加時間：家財の無駄の点検、分別 取組：オンラインの授業、支払、面会
・今は孤独なステイ生活なので、通院の待合室で同病の友人を増やし、情報収集に会話しています。趣味の映画鑑賞、展覧会、江戸時代の歴史巡りなど、2回接種してもデルタ株が怖くて外出できません。
・Zoom で会議する事、また教会も礼拝、聖書を読む会も Zoom 併用となった。
・仕事をやめた時期と重なったこともあり、本を多く読むことができるようになった。
・家の中の片付け(断捨離)の時間が増えた。 ・特になし
・昨年从去年までPTAの係をしています。例年通りの行事に取り組めずその分の手が掛かりませんが、代わるものを考えて実施しなければなりませんので別の工夫が必要です。この会の運営も同じです。
・夫が仕事による夜の外出が減り、家族で過ごす時間が増えました。

④ 自粛期間が終わったらしたいことは何ですか

・今まで台所の仕事などほとんどしたことがなかった夫(90歳)が頑張るのを見るにつけ健康の大切さについて考えてみたいと思いました。
・東京在住の子ども達との再会。コンサートや旅行など人との交流。
・今までの集まりに参加し、スポーツジムも再開、旅行もしたいと思います。コンサートや展覧会にも出掛けたいと思います。
・県外にいる友人たち(ご主人、お子様がお逝去された友人)に会いに行くこと。旅行。
・今休んでいる、習いごと講座への出席。遠方の別家に行って雑木雑草等の整理。近隣への挨拶。受けたいのに我慢していた体調の健康チェック。古くなった器具やスマホなどを調べて買い替え。
・旅行と旧友との集まり。 ・旅行(乗り鉄)
・直接面会と更なるオンラインの推進。 ・旅行、外食
・まずは以前のように東京⇄新潟行き来のリズムを取り戻す事。又、会合や講演会、講習会などが「Zoom」「リモート」で行われる事が多くなったので、そのやり方を覚えたいと思います。
・旅行、外食、万代、デパートで買い物。習い事(英語)の再開。
・家族に会いたいと思います。旅行もしたいです。
・外国旅行 ・小旅行。観劇。 ・趣味、社会活動の再開。
・親睦を深めたい方がたくさんいらっしゃるの、このチャンスを逃さないよう、早く食事会などできるようになりたいです。
・昨年義父が亡くなったが親族で集えないので、法事を開きたい。

→回答の続きは、次号の会報No.6に掲載します。お楽しみに。

お知らせ

今後の予定

新潟支部行事

- 12月4日(土) 第72回支部奨学賞授与式
- 1月22日(土) 1月例会、国際交流部学習会、
部会次年度活動打ち合わせ

本部行事

- 全国セミナー

日程 2021年11月14日(日) (会場とオンラインの併用開催)

内容 メインテーマ「教育・ジェンダー・共生～コロナ後の共生社会を支える教育～」

申し込み 11月7日まで 詳しくは郵送済みチラシ、JAUWホームページ、支部長までご確認ください。

*本部アンケート「コロナ後の共生社会を支える教育を考える」へのご協力、ありがとうございました。

連絡・報告

- 本生涯学習委員会より『災害の記憶をつなぐ』(仮題) 出版のための原稿ご執筆のお願い

原稿内容・・・災害に関する<記録>、<記憶>、<提言> 800字以内

『新潟支部会員の中には、新潟地震、中越地震、東日本震災の体験もあることでしょう。ご自分、家族、友人などが経験された災害についての客観的な記録や、それについてのご感想、記憶に残っている印象的な事柄など、なんでも結構です。また、ご自分の経験を基に今後の防災、災害後の暮らしについてのご提言もお寄せください。』

*今年度末頃に刊行予定とのことです。執筆可能な方は、12月末日までに支部長までお申し出ください。

- 第1回全国支部懇話会 出席報告 鈴木裕美支部長 8月30日20:00~21:30 Zoomにて開催

支部長のネットワークは昨年からの懇話会もままならない状況ですが、各支部の状況を報告しあい活気づけることを目的に初めて開催され、今回は支部の中で情報の共有がどのように実施されているか意見交換をしました。

本部からの情報は膨大ですが、当支部の運営も、情報ノートやメール、郵便を使用して支部会員への情報提供を心掛けています。最近はZoomの利用で学習会等への参加も地域の垣根を超えることができます。新潟支部会員のみならずからもご活用いただけたら幸いです。本部のホームページは「JAUW」と検索してご覧ください。

- 会報 No.4 の掲載内容の誤りについて 以下の通り訂正してお詫びいたします。

6 ページ本文 7 行目 (誤) 新潟地震が発生した 1947 年 (正) 新潟地震が発生した 1964 年

編集後記

会報 No.5 をお届けします。

新型コロナウイルスの影響を受けて、なかなか皆様とお会いできない日々が続く、淋しく思っております。また、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

会報担当 三上杏里

第72回支部奨学賞授与式

日時: 12月4日(土) 11:00~11:50

会場: 新潟市男女共同参画推進センター

「アルザにいがた」307, 308

詳しくは同封の案内チラシをご覧ください

会報担当 (五十音順)

大淵、鈴木、登坂、三上、吉谷

新潟支部会報 No.5

(一社) 大学女性協会新潟支部

支部長 大淵智絵 鈴木裕美

<http://jauwniigata.blog.fc2.com/>

発行日 2021年11月1日